



平成18年7月17日

このえ町

議会だより

第74号

発行/九重町議会

〒879-4803
大分県玖珠郡九重町大字後野上8-1

☎ 0973-76-3814

編集/議会広報編集委員会

印刷/尾花印刷株式会社



アイガモ農法に昔を偲ぶ高齢者の皆さん

6月定例会

- **第2回定例会** 18年度予算関係 P.2
- **人事案件・陳情** P.3
- **一般質問 5名** P.4
- **私のひとこと**
 - 野上 佐藤進太郎さん P.9
 - 飯田 時松サツキさん
- **こんな町にしてほしい** 東飯田小学校6年 近藤 愛さん P.10

第二回定例会

平成18年度、第二回定例会は6月9日から21日までの13日間開催され、報告2件、議案17件、陳情1件、発議1件と継続審査となっていた陳情1件を審議いたしました。

〈一般会計補正予算〉

3千7百24万円を追加して
総額62億5千2百24万円となる。

補正予算の主なもの

- ドクターヘリ運航負担金 36万円
- 老人保健医療費拠出金 2千2百29万8千円
- 泉水キャンプ村管理費 8百39万1千円
- 鳴子川大吊橋施設管理費 9百64万9千円

九重“夢”大吊橋入場料決定

【中学生以上】 500円
【小学生】 200円

公から民へ

指定管理者制度選定第1号は大吊橋物産直売所で、九重鳴子物産株式会社(代表取締役 甲斐良一氏)が3年間の指定管理を受ける。

工事請負契約

- ◎ 契約の対象
多目的グラウンド人工芝改修工事
- ◎ 契約金額
6千2百47万5千円
- ◎ 契約の相手方
日本体育施設(株)九州営業所(福岡市)

議会の動き

- 《4月》
18日 町内巡視(総務財政常任委員会)
- 20日 町内巡視(教育民生常任委員会)
- 25日 区長会
- 〃 正副議長常任委員長会
- 27日 町内巡視(建設産業常任委員会)
- 《5月》
11日 玖珠郡育英会総会
- 15日 大分県町村議会議員研修会(大分市)
- 22日 24日 議長会全国研修会(東京都)
- 29日 鳴子川周辺調査特別委員会
- 《6月》
2日 恵良住宅落成式
〃 議会運営委員会
6日 玖珠郡老人養護組合議会
- 9日 本会議(開会)
- 12日 本会議(一般質問)
- 13日 教育民生常任委員会
- 14日 建設産業常任委員会
- 〃 総務財政常任委員会
- 21日 本会議(閉会)
- 28日 泉水キャンプ村開村式

県町村議会議長会の 会長に就任

九重町議会議長

佐藤 美登



本年4月の県町村議会議長会の理事会において、図らずも本会の会長に選任されました。現在ほとんどの自治体が財政難にあり、議員

定数や報酬の削減、人件費から事務事業にいたるまで可能な限り経費削減を図りながら自助努力を行っています。市町村合併に伴い、町村数が大幅に減少するという状況にあります。が、会務のより効率的な運営を図り、議長会の目的達成と町村議会の発展のため、微力ではありますが、全力を傾注する所存であります。

監査委員

飯田英吉氏の選任に同意



現監査委員の飯田英吉氏の任期が、平成18年6月18日で任期満了となるために、同氏を満場一致で再任に同意。

みなさん方の陳情は
こうなりました。

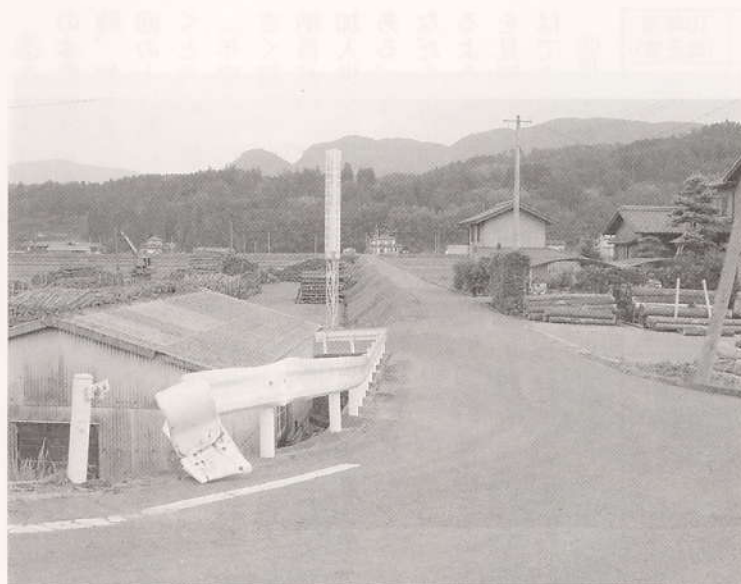


陳情

●岩の上 飯田巧一氏外
5名からの農道出入口の
拡張については。

農道の幅員は平均4〜
5メートルあり、要件は

十分に備えているが、木材共販所があり、大型トラックや大型のトレーラーでの木材搬入等に支障をきたしている状況を考えた時、趣旨も理解できることから採択すること意見の一致を見ました。



大型車の出入りが多い木材共販所付近の農道

●継続審査となっていた
陳情受付番号第2号 文
人顕彰記念碑の建立につ
いては。

歴史や文化の継承は必

要であるが、吊り橋エリアは今後も周辺整備事業が考えられることから、現時点での文人顕彰記念碑建立は時期尚早と判断し、不採択としました。



文人顕彰記念碑建立の陳情が出された吊り橋エリア

意見書提出

地方交付税改革に関する意見書

国の財政改革を優先した交付税総額の削減や人口と面積を基準に配分額を決める新型交付税の導入に反対し、財源調整機能など本来の機能の堅持と地方分権の実現にふさわしい改革を求めるため。

私の一般質問

6月20日に5名が質問しました。質問と答弁の内容を要約してお知らせします。

井上 里子



国民健康保険税の抑制対策を

問 今定例会に提案されている国民健康保険税条例の改正案では、保険税が、特に医療分について大幅なアップになっている。3人世帯で課税対象所得が百万円の場合について、年度ごとの課税額の増減を計算してみると、15年度は前年度よりも1万2600円の減額、16年度は1万8600円の増額、17年度は増減無し、18年度今回の改正案では、3万円の増額となる。課税対象所得が2百万円の場合、昨年度より4万6000円の増額となる。

①保険税大幅増額の要因をお聞きする。

区 分		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度 (改正案)
医 療 分	所 得 割	7.7%	8.0%	9.2%	9.2%	10.8%
	均 等 割 (人数割)	円 24,000	円 20,400	円 22,200	円 22,200	円 25,800
	平 等 割 (世帯割)	円 26,400	円 21,600	円 22,800	円 22,800	円 25,900

区 分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
保険給付費 (医療費)	万円 1億6,600	万円 7億8,300	万円 8億7,400	万円 8億7600	(当初予算) 万円 8億9,200
基 金 とりこわし	0	万円 7,400	0	1億円	(当初予算) 万円 7,000
基 金 残 高	万円 3億2,700	万円 2億5,300	万円 2億5,300	万円 1億5,300	(年度末見込) 万円 8,300

②この8月に、国保税の本算定通知を受け取る時、加入世帯の多くは今回の上げ幅の大きさに驚くと共に、課税のあり方(年度ごとに課税額が大きく違ってること)に納得がいけないと思う。加入世帯に説明が必要である。また、課税額が、なだらかな傾斜で変化するように、3年程度は先を見通した保険税の設定はできないか。

③保険税の抑制対策を。

医療費の抑制に努める

答 ①大幅アップの要因として2点ある。一つは18年度の見込み額(支出所要額)から税率がどうなるかということであり、二点目は、基金が大変厳しい状況になっているということである。

②説明責任については、広報、あるいは出前講座等を積極的に活用しながら、町民に国保会計の財

政状況を説明し、保険税率の改定に対する理解を得ていきたい。

また、3年程度を見通した税率改正の設定には、医療費の推計も必要であるが、適正な基金が確保されている状況をいつも保っておくことが必要だと思う。そういう努力をしていきたい。

③保険税の抑制対策は、医療費を抑えていくことになる。国が進めている医療制度改革に期待する面もあるが、本町で考えてみると、国保会計の中で、保健事業や医療費適正化事業を推進し、一般対策としても、各種のがん検診や基本検診の受診率アップ等の保健事業、あるいは成人病教室等の健康教育の充実に努めていかなければならない。

集落営農の組織化を

どう進めるか

問 施政方針に、「18年度から20年度までを集落営農の重点推進期間と定め、地域ごとに組織化を

促す」とある。また、当初予算に、集落営農体制整備推進事業補助金が、833万円計上されていて、その予算説明の際に、「15地区をモデル地区に指定して推進したい」という説明があった。18年度は、集落営農の組織化を、どの地区でどのように進めていくのか。

答 今年2月から両農協の集落座談会を通じて、組織化の重要性や品目横断的経営安定対策の説明を行ってきた。組織化の必要性は大体理解されたと思っているが、具体的に取組もうとする積極的な集落は、現時点では無いと言ってもよい。

15地区で集落営農の組織化をというのは、将来に向けてそうしていくというわけで、これまで機械の共同利用組合として組織化している集落や、中山間地域等直接支払い制度に乗っている地域を中心に、今回の集落営農の取組みを働きかける。

きれいな水を残すために

町長／ 計画的に取り組んでいる



佐藤 博美



汚水処理が進む合併浄化槽

問 九重町に来る観光客は500万人と言われているが、その多くの人は自然を求めて来る。この自然なくして九重町の観光はない。また筑後川の最上流であるこの水源地としてきれいな水を残す事が大切だが、九重町の汚水処理事業計画と現在の合併浄化槽の数は

答 観光も農業も自然を大事にしていかなければということとは基本的に置かなければと思っている。九重町では公共下水は無理なので、平成6年から計画的に合併浄化槽に取り組んでいる。合併浄化槽の数は住宅、事業所合わせて763基、その内補助事業でやった分が423基ある。

新たな取り組みは

問 九重町が取り組んでいる合併浄化槽設置整備事業は国・県・町村が費用の4割を補助し、個人負担が6割だが、浄化槽市町村整備型推進事業なら個人負担が1割、5人槽で約90万円かかるが個人負担は9万円で設置することができ、この事業への取り組みはできないか。

今の形態で推進

答 市町村整備型事業は住民負担は少ないが、保守点検、清掃、法定検査すべてを町が行わなければならない、水道と同じように特別会計の設置が必要となる事と、今までの事業との整合性の問題もあり、今の浄化槽の設置事業の形態で推進をしていきたい。



料金が高い！

問 玖珠郡は浄化槽の清掃作業料金が高いと言われている。日田市と比べてみると清掃作業技術料と言う項目が玖珠郡だけある。これはなぜか。

また、業者が1社しかなく競争が無いから高いのなら、行政の責任として郡民が不利益を被る事のないように指導をしたらどうか。

業者と話し合う

答 浄化槽については、汚泥を汲み上げた上に13項目にわたる点検整備というものもあり、清掃作業技術料は、環境省令に基づくものであると判断している。しかし、日田市がこの項目を取ってなく玖珠郡の方が高いと言う事であれば、今後業者と話し合いの場を持って協議していきたい。



汚泥処理施設の玖珠環境衛生センター

“夢”は日本一

町長／H20年、全国シンポジウム開催
さらなる推進を図る



坂本憲治

農業従事者年代別割合

農林業センサス	20代	30代	40代	50代	60代	70代
2000	9%	11%	19%	18%	23%	20%
2005	7%	8%	15%	23%	20%	25%

新規就農者の推移

	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	3人	5人	2人	3人	6人	2人	9人

農産販売粗収入比率

農林業センサス	300万円	500万円	1,000万円	2,000万円	3,000万円
2000	79戸	138戸	62戸	13戸	8戸
2005	82戸	118戸	52戸	16戸	9戸

九重町農業の現状 (2000 農林業センサス)
(2005 農林業センサス)

10年間の生産額の推移

(単位：百万円)

	H6	H15	H16
トマト	368	404	410
キャベツ	152	24	40
梨	254	145	80
椎茸	732	657	720
花卉	572	530	690
肉用牛	786	584	970
米	1,064	640	720
乳牛	368	279	380
肥育牛	95	489	508
白ネギ	1	46	30
生産合計	4,392	3,798	4,548

答 H13年、町一村六品プラスアルファで、夏の涼しさ、地域の資源、土地条件等九重に適している事が調査で分かり、研究会を中心に行政、農協、生産者が一体で、単補助事業を活用し、農業振興と観光に結びつけるべく推進し、講演会、講習会、また消費、流通、

問 西日本一の産地づくりを目標に掲げてのブルーベリーの普及推進は、現時点において良い方向に進んでいると考えられる。ブルーベリーの推進の経過と今後の戦略について伺いたい。

問 高齢化社会を迎える中で、四季を通じての作物が必要と考える。夏はブルーベリーとして、第二、第三のブルーベリーは

第二、第三のブルーベリーは

圃場管理等徹底して推進して来た。H20年に九重町で全国シンポジウム開催が決定、更なる推進を図って行きたい。



ブルーベリーの樹

十分に検討する

答 当時ブルーベリーは中国での植栽はなかったが、現在では栽培が増加している。九重町に適した物があれば取り組みが

必要と考えている。県も農業の指導体制は強化しており、県と一体となつて取り組む。専門職については、今後十分に検討する。

農業従事者の減少

問 年度別(資料)統計について、20代、40代までの農業離れが心配されている。新規就農者は増加している。政策を強化すれば、答えは出ると信じている。年に一度位は、数字を分析しての農政振興も必要と考えるが。

地道に努力

答 農業者人口の減少が、生産額の減少に追い打ちをかけている。有効な手段が少ないが、認定農業者の育成確保、IターンやUターン、少子化対策等、地道な努力が必要である。



多く生産されている白ネギ

生竜橋、早く方向づけを

町長／十分に連携協議する



江藤 一幸

問 大雨時、土石流が発生し流木等引つかかることが想像出来る。早急に『かけかえ』をすべきだ。

県の河川課が図面を引いているが、課長以外はこの事を知らない。内部での情報共有が出来ていないのでは。

地元には不信感を抱けないよう、丁寧に情報提供及び協議をすべきだ。蜷祭りのお客さんがこの橋に多数来ている。欄干が低い。転落防止の柵設置すべき危険だ。

答 生竜の橋は危険度が高いことは理解し、梅雨の度に、大水が出なければ良いがと思っている。かけかえなら4m。しかし、課題も多い。解決に向け、最大の努力をし、地元と十分に連携協議しながら対処していきたい。

課内での意思疎通については、今後十分やっていきたい。

欄干が低く、危険性があるので、実行委員会とも協議をし、出来るだけの対策を講じる。

どう連携 するのか

問 昨年、タデ原湿原がラムサール条約に登録、セブンイレブンが本格的に自然学校開設のための準備校を開設、吊り橋も含め、今後視察が殺到する。役場の窓口はどこにする。

答 窓口は、危機管理、町民安全課、福祉課・教育振興課・農林課等々、それぞれで対応していく。有機農業について、民間主導でやられている。町も積極的に取り組んでいきたいと思っている。

それぞれ連携



水害が心配される生竜橋、ホテル観光で多くの人が訪れる

丁寧に説明を

問 亀鶴苑は現在民営化を目指して動いているが、入居者やその家族に丁寧に説明しているのか。

働いている人も含めて丁寧に説明をし、納得してもらおう動きが、今事務事業の見直しの中で必要だ。

十分に説明する

答 民間委譲について、職員と入居者に説明が遅くなっていたが、一応の説明はした。

亀鶴苑議会で、民営化協議をいただいたので、十分に説明をし、納得していただき民間委譲にもついでいきたい。



民営化でゆれる亀鶴苑

酪農の現状は！

町長／“牛乳”生産調整



佐藤 勝憲



酪農の生産調整を余儀なくされている酪農

問 牛乳の生産調整による農家の現状は、国の調整にも問題があるのでは。事業の拡大を進め、事業費の70%を国及び県が補助して、事業は行われている。1億円の事業をすれば、個人負担も30%で3千万円になる。生産調整になれば、自己負担金の支払いが困難になるのではないか。町として、

答 この時期に酪農家に支援する事を考えたかどうか。和牛の保有牛については、1頭に付き5万円の補助があるが、乳牛に対しては、補助制度がない。乳牛にも保有牛に対しても同じく5万円の補助金を考えるべきだ。

から生産調整に入った。九重町の割り当ては、4.3%の64・5トンで減額の多い農家で、150〜200万円と思われる。国や県の支援のための生産調整に係る補助金等は、現時点ではない。酪農家の置かれている現状は厳しいということ踏まえて、少し検討をさせていただきたい。

いかに宿泊させるか



問 吊り橋の完成に向けて、観光協会への指導は出来ているのか。周辺の道の整備は、10月迄に出来上がるのか。観光客は多く来ると思う。また来てくれないか。それに伴い車も多くなる。道路整備が間に合わない、来てくれた人々に迷惑をかける事になる。10月の開通迄には道路整備

は万全か？

宿泊客対策はホテル、また民宿と、客に対しての対応指導は行っているか？ 20億円をかけて九重の観光の目玉として架けた吊り橋。吊り橋を渡ったが、泊まりは九重町以外とならない様、観光客をいかにして九重町に宿泊させるのか、考えを。

滞在型観光へ

答 10月には九重夢大吊橋が完成するので、大型

バス等による交通量の増加が予想される。既に用地も目途をつけ、測量設計が終わり用地の買収についてお願い申し上げ、早急に離合場所改良に取り組みたい。



九重夢大吊橋への期待がかかる滞在型

変わるモノ 変わらぬモノ

野上（滝上）
佐藤進太郎さん



昨年8月、12年ぶりに九重町の住人となった。久しぶりに巡ると、変わった場所や変わらぬ場所がある。自分自身に重ねてみる、僕も随分変わったなあとと思う。

6月3日、母校である野矢小学校の運動会に参加した。全校生徒15人。開会してすぐに、僕の不安は無くなっていた。僕等の頃と変わらない元気で無邪気な子ども達がいた。野上中学校の先輩達も応援参加していた。僕



永田の草取りに精を出す佐藤さん

は、頑張れと声に出し、心の中で変わらず大人になってくれ、と叫んでいた。

朝、学校へ向かう子ども達に遭うことがある。

おはようございまあす。

と声を掛けられる。僕はあわてて声を返す。次は僕の方から声をかけよう、

そう思い、畑へ向かう足

が軽くなっている。

夢ふる町九重町。理想

と夢と置き換えるなら、

この町で僕の上にも夢は

降りてくる。



夢幻の橋

飯田（北方下）
時松サツキさん



昔子どもの頃より、夢物語に、白鳥神社より対岸に向かって、橋がかかるとすばらしいのにねえと、よく話したものでした。夢の又夢。幻の橋としての語り草でしたが。今は、現実となり、目前にその雄姿を開架し、誠の夢の大吊り橋そのものです。完成も間近かに迫り感無量です。九重町及び飯田地域には、多数の名所や伝説等があります。多くの人々に、知って頂くため、九重町夢の大吊

り橋と共に、是非宣伝をし、観光や農業振興に活用して頂きたい。ただ、発展と共に、自然が失われはしないか。事故、事件が多発しないか。これから先、過疎化になった村に、若い方々が帰省して来るだろうか心配です。若者の住みなくなる町、地域作り。老人や子ども達が安心して暮らせる町にして頂くべく、町政にご期待致します。



夢が現実のものとなった大吊り橋

わたしの ひとこと

平成18年7月17日

議会だより

こんな町にしたい

きれいな町に

東飯田小学校6年

近藤 愛さん



私たちの学校には、月目標で「ゴミをなくそう」という生活の目あてがあります。各学年や環境委員会でゴミを出さない取り組みをしたり、ゴミを集めたりしています。その中で一番多いゴミは、おかしやの袋やかすです。食べたあとに、そのままにしておいたり、ゴミをかくして捨てたりする人がいます。私は、月目標の取り組みを行なっているのにだれかがゴミを捨てているのはおかしいと思っています。きちんと自分が食べたものを家に持って帰って捨てるか、ゴミ箱に捨て

てほしいです。ゴミ拾いを続けていくうちに、だんだんゴミが減ってきます。しかし、その月目標が終わるとまた、ゴミは増えてきます。それではおかしいと思うので、声かけをしていきたいし身の回りのことからきれいにしていきたいです。私の住む町や地域でも、同じ事が言えます。遠足で竜門のたきに行った時のことです。お弁当のかすや、あき缶、おかしのかす、雑誌、などいろいろ捨ててあります。九重町は、自然の多い所です。だからもっと町をきれいにしたいし、きれいな町に住みたいです。

飯田高原では、昨年ラムサール条約に登録された湿原があります。これは、水鳥がたくさん住める豊かな自然のある所にしか認められないものです。もし、自然がこわされていけば登録されなかったでしょう。飯田高原の、自然を守る人たちの努力によってできたということを聞きました。

このような、取り組みが町全体に広がり、九重町が、ゴミのないきれいな町になるといいなと思います。そして、今ある自然を大切に、いつまでも大事に守っていききたいです。一人でも、めんどくさいとか思わず、町のみんなが、協力していくことが、ゴミがなく、自然がきれいな町づくりにつながっていくと思います。

議員リレー

随想

43

夢“大吊り橋”への想い



河野 範成

九重町が観光浮揚の目玉にと、巨費を投じて着手した日本一の大吊り橋が完成間近、10月のオープンに向かって急ピッチで進んでいる。現地調査と併せ、橋の揺れがどれ位かと心配なので、ヘルメットを着用し、同僚議員と恐る恐る橋渡りにチャレンジ。想像していた揺れはまったくなく、高所恐怖症の私もたやすく渡れ、当初の疑念が払拭され

ました。これなら誰でもが渡れることを実感したものです。

少し進むと男滝女滝を目前に、遠くには噴煙上がる九重連山、更に下流に目を転ずれば鳴子川の渓谷等々、正に360度のパノラマです。このポジションならではの絶景でした。

九重町ブランドの誕生です。この“夢”大吊り橋をどう活かして行くかが今後

の課題、このブランドが近隣の具にされるのでは間尺に合わない。先日大型バスで訪れた客にお泊まりはと聴いたら、黒川温泉と言った「なしか」九重九湯もあるぞと言いたい。

絵双六町内名所巡りをし、一回休みも取り入れてアガリは九重の宿ではと思う。九重町が名実共に日本一のブランドにと願わずにはいられない。



待望の、鳴子川に架かる大吊り橋も名称公募総数、5,890点の中から、福岡県太宰府市在住の田崎英二さんの九重“夢”大吊り橋に決定された。10月30日の完成を待たばかりとなり、周辺の整備が急ピッチで進められています。

S・U

